

# J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



暦の上では大寒から立春と、眼には見えねど春への準備が進む頃。さて、皆様の絶大なるご協力により、J-DAVID試験は目標症例数を達成しました。これまでのご支援に心よりお礼を申し上げますとともに、これから4年の追跡についても、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 世話人からのメッセージ

### 「私とビタミンDとの関わり」

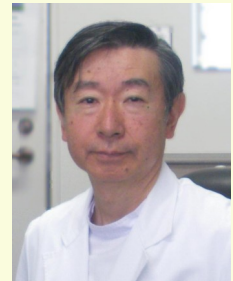
武蔵野赤十字病院 腎臓内科  
安藤 亮一先生

1984年当時、これから腎臓や透析の勉強をやっていると思っていた新米の腎臓内科医であった私にとって、衝撃的だった論文のひとつが、Slatopolsky先生ら\*の静注ビタミンDによる二次性副甲状腺機能亢進症の治療の論文である。この分野で新たな局面を切り開く臨床研究であったといえる。私の恩師であり、医学が真実を探求するサイエンスであることを教えてくれた佐々木成先生(現:東京医科歯科大学腎臓内科学教授)は、腎生理が専門でこの分野では専門外であったが、この論文が出た当初、その後のビタミンD研究の大いなる発展と臨床的有用性を直感し、私に助言いただいたことを思い出す。私自身はその当時は未熟で、すぐに臨床や研究に生かすことは思いつかなかったが、佐々木先生の予想どおり、その後のビタミンDの研究が、副甲状腺との関連を中心にすすみ、臨床的にも二次性副甲状腺機能亢進の治療の中核となった。その後、私自身もビタミンDの二次性副甲状腺機能亢進症の治療薬としての有用性を実感し、そのことを検証する臨床研究に、ほんの一部ではあるが、関わってきた。

しかし、中等度から高度の二次性副甲状腺機能亢進症にビタミンD治療を続けることにより、カルシウム・リン積が増加し、結果的には、異所性石灰化の原因のひとつとなってきたことの反省と、副甲状腺機能を効果的に抑制するカルシメテックスである、シナカルセトの登場により、二次性副甲状腺機能亢進症治療におけるビタミンDの役割は新しい時代に入ったといえる。

一方、ビタミンDは、免疫調整作用、抗炎症作用など様々な多面的作用を有し、観察研究では、透析患者の生命予後を改善

することが報告されてはいる。私もビタミンDと生命予後には以前から関心を持っていた。以前在籍した中野総合病院では、私が在籍していた1995年から、年2回定期検査で1,25ビタミンD濃度を測定している。今度の透析医学会では、現在中野総合病院にいる共同演者の先生がそのビタミンD濃度と生命予後との関連を検討し発表する予定である。



では、ビタミンDは本当に透析患者の生命予後を改善するのか、は前向きランダム研究では検討されていない。大阪市立大学の庄司先生らが計画したJ-DAVID試験は、この命題について正面から検証する、ビタミンDに関する真実を探求する臨床研究である。この研究により少量の経口ビタミンDが透析患者の予後を改善するという仮説を証明できれば、透析医療における新しいビタミンDの時代を切り開く臨床研究といえる。このような素晴らしい目的をもった研究の一端を担えることに誇りと感謝を表したい。

J-DAVID試験は、最後の最後になって、目標症例数972例を達成するとのこと、大阪市立大学の庄司先生をはじめとした関係者の方々のご尽力に敬服するとともに、これからのデータの収集と解析により、ビタミンDに関する臨床的な真実が明らかにされることを期待したい。

\* Slatopolsky E, Weerts C, Thielan J, Horst R, Harter H, Martin KJ: Marked suppression of secondary hyperparathyroidism by intravenous administration of 1,25-dihydroxycholecalciferol in uremic patients. J Clin Invest. 74:2136-2143, 1984

## 最近の文献から

### 肺結核の強化抗菌薬治療中の高用量ビタミンD3投与:ランダム化比較試験

#### High-dose vitamin D3 during intensive-phase antimicrobial treatment of pulmonary tuberculosis: a double-blind randomised controlled trial.

Martineau AR, et al. Lancet 377: 242-50, 2011

【ポイント】抗菌薬が用いられる以前は結核のビタミンDが使われていた。抗菌薬治療にビタミンD3追加する効果を、喀痰培養陰性化までの期間をエンドポイントに設定したRCT。症例数は146症例。喀痰培養陰性化までの期間は、ビタミンD群36.0日、プラセボ群43.5日(中央値)(P=0.14)で有意ではなかった。しかし、VDRのTaqI多型のtt genotypeでは、ビタミンD群で有意に期間が短縮された(P=0.02)

【詳しくは】[http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list\\_uids=21215445](http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=21215445)

# 登録数最終報告

累計登録数の最終ランキングを報告いたします。(1月27日現在)

## 累計登録数ランキング TOP10

順位	施設名/地区	登録件数
①	井上病院/大阪	84
②	白鷺病院グループ/大阪	73
③	田仲北野田病院グループ/大阪	50
④	桃仁会病院/京都	47
⑤	紀の川クリニックグループ/奈良・和歌山	43
⑥	北彩都病院/北海道	40
⑦	川島病院グループ/徳島	35
⑧	大野記念病院グループ/大阪	31
⑨	高知高須病院グループ/高知	30
⑨	翠悠会診療所/奈良・和歌山	30

## 12・1月度登録数ランキング

順位	施設名/地区	登録件数
①	白鷺病院グループ/大阪	53
②	紀の川クリニックグループ/奈良・和歌山	31
③	川島病院グループ/徳島	30
④	井上病院/大阪	29
⑤	田仲北野田病院グループ/大阪	23
⑥	重井医学研究所附属病院/広島	13
⑦	高知高須病院グループ/高知	12
⑧	佐藤循環器科内科/愛媛	9
⑧	つくばセントラルグループ/茨城・千葉	9
⑩	姫野クリニックグループ/島根	8
11	日鋼記念病院グループ/北海道 阪和記念病院/大阪	7
13	西陣病院/京都	6
14	北彩都病院/北海道 小野山診療所/大阪 原三信病院附属 呉服町腎クリニック/ 福岡・大分	5
17	信楽園病院/宮城・新潟 飯田橋村井病院/東京 新柏クリニック/東京 エバラクリニック/東京 谷口病院グループ/奈良・和歌山	4
22	松山医院 大分腎臓内科/福岡・大分	3
23	札幌北楡病院/北海道 矢吹病院グループ/山形 腎内科クリニック世田谷・東京 本厚木メディカルクリニック/神奈川 名古屋第二赤十字病院/愛知 中央内科クリニック/広島 大分中村病院/福岡・大分	2
30	H・N・メディック/北海道 東京綾瀬腎クリニック/東京 三軒茶屋病院グループ/東京 南田町クリニック/東京 武蔵野赤十字病院/東京 ときわクリニック/茨城・千葉	1
	淀井病院/大阪 あおい病院/大阪 小尾クリニック/大阪 総合病院 東香里病院/大阪 大野記念病院グループ/大阪 翠悠会診療所/奈良・和歌山 首里城下町クリニック第二/沖縄	

## 最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(1月27日現在)

## 症例報告書回収状況報告

登録	観察開始時	3ヵ月	6ヵ月
976	680	455	409

12ヵ月	18ヵ月	24ヵ月
257	86	47

## J-DAVIDデータセンターからのお知らせ

おかげさまをもちまして、目標症例数を達成することができました!!

登録期限いっぱいまでご協力くださいましたご施設のみなさま、本当にありがとうございました!!

今後はデータの回収とクリーニングに全力を注いでまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。



編集・発行：J-DAVID研究会事務局  
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分泌病態内科学 内  
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808  
J-DAVID試験データセンター  
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

ホームページもご覧ください。  
<http://j-david.info/>